

城南中学校の閉校によせて



龍ヶ崎市長
萩原 勇

このたび、愛宕中学校との統合による「龍ヶ崎中学校」の開校に伴い、地域とともに歩み愛されてきた城南中学校は、この61年の長い歴史に幕を下ろします。

城南中学校は、昭和の大合併後の昭和36年に龍ヶ崎中学校から分離し、大宮中学校を統合して創立されました。令和2年度には創立60周年を迎えた市内で最も歴史と伝統のある学校であり、今日に至るまで多くの卒業生を送り出し、地域・社会に大きく貢献する人材を輩出してきました。

私も城南中学校の卒業生のひとりであり、在学中は野球部で仲間と汗を流してきた思い出があるだけに、「城南中学校」の名前がなくなることは、寂しい思いがあります。

これまでの歴史を築き上げてこられた歴代の校長先生並びに教職員の皆様をはじめ、本校に関わっていたすべての皆様に深く感謝を表しますとともに、統合に至るまで、子ども達のより良い教育環境の充実に向け、熱心に話し合いを重ねていただきました地域の皆様、PTAや保護者の皆様のご尽力に深く敬意を表します。

生徒の皆さんは、新しい学校生活がまもなく始まります。新たな環境で多様な経験を重ねながら、学校生活がより一層充実したものになるよう願っています。

城南中学校は閉校となりますが、統合先においても良き伝統が受け継がれ、新たな歴史を築き上げていくことを楽しみにしています。「自主・協和・創造」の校訓のもと培ってこられたその精神は、これからも胸に深く刻まれ、激動する社会にあっても、たくましく人生を切り拓いていかれるものと信じています。

私たち大人は、責任を持って、子ども達の未来のため何が最善かを考え、新しい学校づくりに向けた検討を進めていかなければなりません。本市におきましては、今回の統合の目的でもある、より良い教育環境を実現するため、教育委員会と連携し全力を尽くしてまいります。また、将来何らかの形で市へ携わってもらえるような、郷土愛に満ちた子どもを育成したいと考えていますので、引き続きのご理解とご協力をお願いします。

最後になりますが、閉校を迎えるまでの61年間、永きにわたって城南中学校を愛し、支えてこられたすべての皆様に心から敬意と感謝の意を捧げますとともに、卒業生の皆様方の今後のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



城南中学校の閉校によせて



龍ヶ崎市教育委員会教育長
平塚 和宏



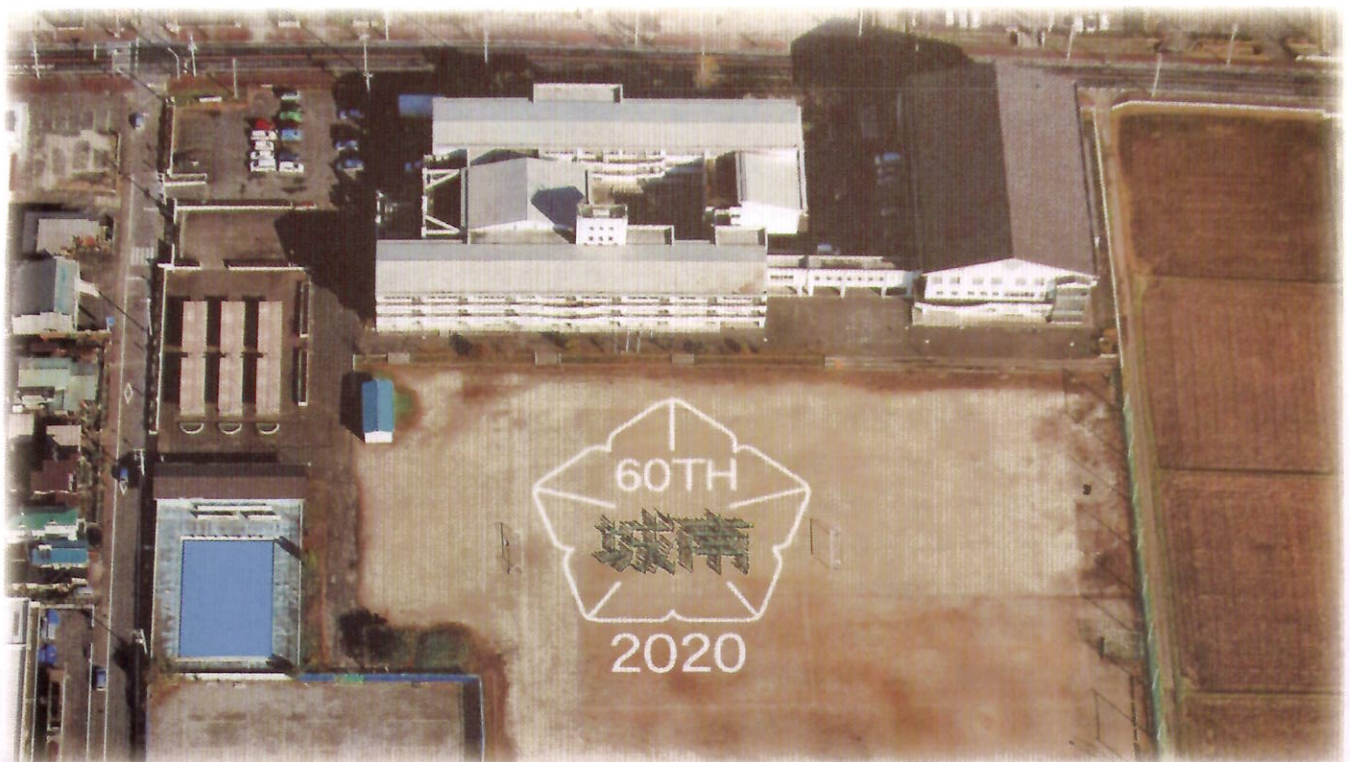
昭和36年に龍ヶ崎中学校・八原中学校・長戸中学校・大宮中学校の4中学校を統合して開設された城南中学校が令和4年3月31日をもって閉校されることになりました。愛宕中学校との2校体制を経て、平成になって城ノ内中学校の分離新設といった60年間の激動の学校沿革を刻んできました。時代は令和になり、社会情勢の急激な変化もあり、今般、愛宕中学校との統合計画が進み、新制龍ヶ崎中学校の新設となった経緯があります。

城南中学校と愛宕中学校、この二つの老舗の中学校によって、長い間龍ヶ崎教育が支えられてきたと言っても過言ではありません。私自身は教員になっての初めての勤務が稲敷郡の中学校でありました。当時から部活動や研修会等で城南中学校に出向くことがありました。独特の校舎のづくり、たくましい中学生の姿、先生方の熱心な指導ぶり等、鮮明に記憶しているものがあります。その後、縁があって、龍ヶ崎小学校、西小学校で合計11年間、教育委員会から合計12年間、城南中学校の活躍の姿を常に側で見続けてくることができました。

私の城南中学校のイメージは、常に前向きで、先生と生徒が力を合わせて取り組む学校であるということでありました。そして、城南中学校を愛してやまない地域の方々の温かい支援に支えられている学校であるということでもあります。それは、年代という枠を越えた「城南愛」というべき貴重な教育財産であると言えます。私自身も長い教員人生の中でたくさんの教え子を城南中学校に送ってきました。その成長を保護者の方々と一緒に見守り続けてこられたことも幸せであると感じております。

この地域で義務教育の9年間、そして中学校での3年間を過ごしてきたことが、城南中学校卒業生の誇りと愛着につながっているものと思います。数多くの中学生が、この地で、この学び舎で辛苦を共にしながら力強く成長してきたのだとあらためて感じております。

残念ながら城南中は閉校となりますが、その「城南魂」や人々の「城南愛」は決してなくなることはありません。新しい学校においても、これまで同様に学校愛にあふれた学校に築きあげられることを心よりお祈りいたします。最後に、長きに渡り城南中学校教育の発展、伝統の継承にお力添えをいただいた地域やPTAの皆様、学校職員の皆様に厚く感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。



～ありがとう 城南中 さようなら 城南中～



閉校記念実行委員長（PTA 会長）
飯島 進

昭和36年に愛宕中学校と城南中学校が誕生し、昨年60周年を迎えた城南中学校。今年の3月で、61年間の歴史に幕を閉じる事となりました。

地域の皆様と共に歩んできた城南中学校。校歌の中で「一千の力」と歌われているように、当時の生徒数は、1,000名近くいたとの事。「我ら城南の～我ら城南の～栄え祈りて～」の校歌を今でも歌える方もたくさんいらっしゃると思います。

近年、少子化や時代の流れと共に、生徒数も減少して参りました。長年地域の皆様に愛されてきた城南中学校が閉校になる事は、とても寂しい気持ちでいっぱいです。

閉校記念事業を行う上で、式典・記念事業部会と記念誌部会を発足させました。今までに経験したことのない、新型コロナウイルス感染拡大によって、限られた時間の中ではありましたが、先生方やPTA本部役員、広報委員の協力を得て、アイデアを出し合い、会議を重ねてきました。

生徒からメッセージを募り、「ありがとう城南中 感謝と誇りを胸に！つなげよう！未来へのバトン！」の横断幕を校舎に掲げ、地域の皆様に閉校を知らせると共に、我が校への感謝を込めて、カウントダウンをして参りました。

昨年10月には、腰塚勇人先生をお招きし「命の授業」の講演会を開催致しました。お話の中では、「ドリー夢（ム）メーカー」「命の喜ぶ幸（行）動」「五つの誓い」などを取り上げ、命の大切さについて熱く語って下さいました。おかげさまで、心に残る素晴らしい講演会となりました。ありがとうございました。

記念誌づくりでは、森井部会長を中心に、先生、本部役員、広報委員で、学校に保存されていた60年間の卒業アルバムを拝見しながら、写真選びを行いました。懐かしい友達や先生方の顔ぶれを見て、楽しかった学校生活を蘇らせながら、「野球部の練習は厳しかったけれど、とても強いチームだったね」「旧校舎は少し傾いていて、消しゴムが転がっていたね」「特徴的な造りの校舎で、廊下は迷路の様な感じだった」「黒板の後ろはロッカーになっていたよね」など、沢山の思い出が語られました。城南中学校に関わっ

た皆様にも、この記念誌を通して、城南中学校を思い出して頂ける様にと、写真を多く取り入れて作成致しました。

2022年4月からは、城南中学校と愛宕中学校が統合し、新しい『龍ヶ崎中学校』が誕生致します。制服も一新し、生まれ変わって行く未来の子ども達のスタートが、今からとても楽しみで、ワクワクしております。

これからも地域の皆様に支えられ、見守って頂きながら、共に歩んで参ります。

最後になりますが、城南中学校の歴代校長先生をはじめ、先生方、歴代PTA会長の皆様をはじめとする、PTA会員の皆様、大勢の卒業生、地域の方々、これまで本校の教育活動に思いを寄せて頂きました、全ての方に感謝を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

～栄え祈りて～



城南魂は永遠に



城南中学校 校長
古島 正

『旧市内を上町、横町、田町の線で城南、愛宕に学区を分割。異例の分割統合のスタートを切った。龍ヶ崎教場の玄関には両中学校名を並記した標札が掲げられ、苦しみ多き統合が出発した。五里霧中で全く慌ただしい明け暮れの一年であった。しかし一同この苦難に面して、よく協力し、一歩一歩開拓していった。顧みてよくぞやったと思う。』

これは、開校初年度の学校沿革誌に記されている初代校長 瀧澤不二男先生の文章です。昭和36年、市内中学校が再編成され、城南中学校と愛宕中学校が誕生しました。ところが、城南中は新校舎ができるまでの2年間、龍ヶ崎教場（現流通経済大学）と大宮教場（現大宮小学校）に分かれ、さらに龍ヶ崎教場では愛宕中と校舎を共にするという異例のスタートだったようです。先述の瀧澤先生の文章をはじめ、開校当初の記録からは、生徒、保護者、教職員が様々な課題を一致団結して乗り越えていったことが想像されます。そして今日まで61年の歴史を刻み、12,456名の生徒が「自主・協和・創造」の精神のもと、かけがえのない青春の日々をこの学舎で送ってまいりました。脈々と受け継がれる伝統と当時の諸活動に懸ける城南中生の息吹が伝わってきます。

さて現在の城南中では、一昨年より新型コロナウイルスが猛威をふるい、先が見えない不安な状況が続いています。毎年楽しみにしていた体育祭や城南祭などの行事は規模縮小を余儀なくされ、またマスクやフェイスシールドを着用しての授業、休校中のオンライン授業など、学習スタイルも一変しました。しかしコロナ禍を経験したことで、生徒は学校がある喜び、友だちに会える喜びを再発見し、人と人との関わりを大切にすることを学んだように思います。閉校を目前にし、誇りと感謝の心をもちながらコロナの逆風を乗り越えようと頑張る姿に諸先輩方から受け継がれた『城南魂』を強く感じます。学校は閉校になりますが、『城南魂』は永遠に心に残り、受け継がれていくものと確信しております。

最後になりましたが、時代の流れ、社会情勢の変化とはいえ、本校の閉校は誠に愛惜の情耐えがたいところがあります。これまで閉校にあたりご支援を賜りました龍ヶ崎市当局・教育委員会、並びに本校閉校記念事業実行委員会の皆様方に心より感謝申し上げますとともに、本校教育に携わっていただきました数多くの皆様、卒業生の皆様のご多幸とご発展を心より祈念し、挨拶といたします。

感謝、そして未来へ



生徒会長
大石 琉輝

「城南中学校が閉校する」と聞いて、私が率直に感じたのは、「母校がなくなるからさみしい。」という気持ちでした。一方で、「最後の城南中の歴史を刻んでいこう。」という気持ちもこみ上げてきました。

城南中生徒会では、閉校を迎えるに当たり、みなさんの気持ちを高める働きかけとして、二つのことに取り組みしました。

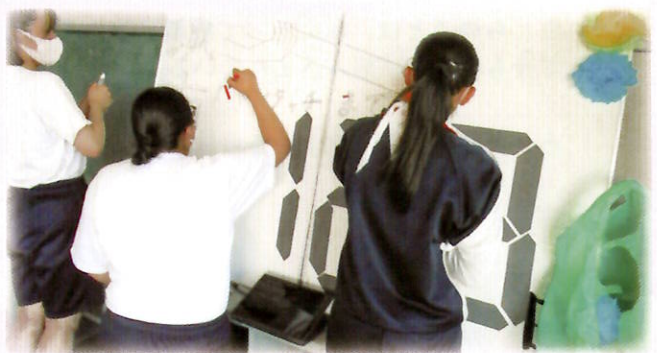
一つ目はカウントダウンボードの作成です。これは城南中に登校できる日数をボードに大きく表して、あと何日城南中に登校できるか分かるように示したものです。このボードを見ることで閉校への意識も徐々に高まっています。

二つ目はスローガンの作成です。生徒にアンケートをとり、検討を重ねた結果「ありがとう城南中～感謝と誇りを胸に つなげよう未来へのバトン」という言葉に決定しました。これからも城南中に感謝し、そして城南中出身であることに誇りをもつことが大切だと思います。

また、「つなげよう未来のバトン」という言葉には、城南中の歴史をこれからの龍ヶ崎中学校につなげていこうという気持ちが込められています。新生龍ヶ崎中学校をよりよくするために私たち城南中の精神『城南魂』を伝えて、これからは生かしてもらえたらと思います。

私を含めて現在の三年生が最後の城南中卒業生になります。母校がなくなることはすごく寂しいですが、城南中での思い出は決して消えることがなく、私たちの心の中に一生残り続けます。

最後に私から後輩のみなさんへお願いがあります。4月からみなさんは龍ヶ崎中学校の生徒となります。不安はあると思いますが、新しい仲間をつくって協力し、よりよい中学校生活を送ってください。さらに城南中で学んできたことを存分に生かしてください。未来へのバトンがみなさんにしっかりとつながっていることを願っています。



教職最後の集大成

第11代学校長
(平成5年度～平成6年度)

黒田 利英



私の城南中学校での在任期間は、平成5年4月1日から平成7年3月31日までの2年間で、これは私にとって教職最後の期間に当たる。着任に際して、私は次の4項目から成る経営方針を策定した。

- ①授業では、学習課題を提示して具体物や資料を活用、板書は構造的にまとめる。
- ②道徳の時間は、感動を伴う授業を展開する。
- ③生徒指導では、あいさつ運動を推進する。
- ④特別活動では、生徒会と学級でボランティア活動に取り組む。⑤当時は総合学習はない。

4月1日、私は年度初めの職員会議でこれらの方針を説明した。これに対し、教員の中には異論を挟む者もいたが、4月6日子どもたちの登校に合わせて校門前であいさつ運動を始めた。次週の木曜日第1校時からは、道徳の授業を開始した。道徳資料と発問、展開例は私が作成した。しかし、4月・5月は軌道に乗らず、空転の日々が続いた。

6月に入ると、あいさつ運動がよくなってきた。「元気におはよう」、「楽しくこんにちは」、「優しくさようなら」が校内に響きわたった。道徳の授業にも変化が出てきた。資料「足袋の季節」や「新聞少年」を使った授業では感動から目を潤ませている子どもがいた。学級ボランティア活動に取り組む学級も出てきた。

12月に行われる生徒会主催「ならせ餅づくり」はこの年に始まり、これまで城南中学校の伝統行事として継承されてきた。

しかし、授業改善には時間を要した。授業の中での課題提示、資料の活用、板書の構造化が図られるようになったのは9月に入ってからである。

これら一連の活動を通して、私は感動を大切にしたい。人は理屈で指導されると反発するが、感動には素直で、感動から心の変容が図られるのである。

翌2年目は、4月当初から順調に運営された。2学期には学校賞として「ソニー教育賞」と「茨城県教育研究会賞」の栄に輝いた。

これらのことは、私にとって教職最後の集大成として今も心の中に刻み込まれている。

ありがとう、城南中！ さらば、城南中！

生徒会による学校改革

第18代学校長
(平成20年度～平成22年度)

今橋 浩一



城南中学校で過ごした3年間の数多くの記憶は今でも鮮明に残っています。

その第一に挙げたいのは生徒会活動です。「イギリス、フランス、ロシアにあって日本にないものは何でしょう？それは革命です。みんなで城南中をより良くする『城南革命』を起こしましょう」は、平成20年度の生徒会長が集会の度に生徒全員に呼び掛けた言葉です。このようにして城南中生徒の学校生活の改善を目指す生徒会活動が始まりました。

平成21年度の活動テーマは、「新生城南始動～進化・深化・真価」でした。市内中学校生徒会の活動報告会である第1回たつの子サミットで、「マナーアップ運動、生徒会誌の作成、城南中の授業スタイルである『学び合い』」などについて自信を持って説明し質問に明快に回答する光景が今も目に浮かびます。

城南中学校開校50周年に当たる平成22年度は、「城南再誕宣言～みんなの‘キョウ’（今日・共）が明日を創る」と未来志向の活動テーマとなりました。生徒会を中心に50周年に相応しい学校にとの機運が高まっている中での50周年行事は、儀礼的ではなく生徒全員参加活動型の催しとなりました。

生徒が前面に立ち運営し生徒が学ぶ姿は、参観した地域の方々に城南中の生徒が以前とは変化していることを強く印象付けることとなりました。

「城南革命」→「新生城南始動」→「城南再誕宣言」という学校生活改善を目指した一連の生徒会活動は、生徒の生き方にも影響を及ぼしたようです。当時の全国学力学習状況調査で確認すると、「人間関係・いじめや規範意識、自尊感情等」の項目で高まりを見せ、「学ぶ意義・学ぶ価値」の項目の高まりに応じて平均正答率も上がっています。

こうした生徒の変化は、生徒自身の向上意欲によるものですが、生徒の思いを尊重して生徒一人一人を支えた先生方、惜しみなく応援してくれたPTA・保護者の皆様、温かく好意的に見守っていただいた地域のお陰であることは言うまでもありません。

学校改革を牽引した熱い生徒会活動と時を共に出来たことを幸せに思っています。

閉校に寄せて

一千の力

第20代学校長
(平成26年度～平成27年度)

海老原 和夫



私は、平成26・27年の2年間お世話になりました。新任校長として、伝統校の城南中で勤務できることへの喜びと身の引き締まる思いで着任しました。当時の城南中は、生徒数が250名ほどで、1学年が3学級、2学年が2学級の規模でした。部活動は部員数が少なくなり、見直しが行われていました。そのような状況でしたが、生徒は、男女関係なく仲がよく、先生方との関係も近く、気軽に悩みを相談する姿が見られ、生き生きと楽しい学校生活を送っていました。

特に印象に残っているのは学校行事です。体育祭では、3年生がリーダーシップを発揮し、それに応えるように下級生が協力、各団が勝利を目指し競い合う活気と、勝敗が決した後、お互いのがんばりをたたえ合う姿は多くの人に感動を与えました。まさに、学校が一つになった「絆」を感じました。また、城南祭では、合唱の発表に向けて紆余曲折はありつつも、最後には、クラス全員で心を合わせ美しく力強いハーモニーを奏でました。

生徒会を中心に常総市水害・広島市土砂災害への募金活動や市内一斉清掃への参加など地域や人々に貢献できる活動を行い、城南中のよさをアピールしました。まさに、学校生活を通して、校訓である「自主」「協和」「創造」を具現化した生徒の姿がありました。

さらに、生徒の活動に深い理解と支援を惜しまない保護者や地域の方々のご協力がありました。「生徒が主役」それを支えてくださった皆様のおかげで充実した教育活動が展開できました。改めて感謝申し上げます。

最後に、生徒の皆さん、城南中が閉校しても皆さんの心の中には、多くの思い出が刻まれています。4月からは、城南中で学んだことを生かしそれぞれ新しい環境で活躍されることを心より願っています。



第21代学校長
(平成28年度～平成30年度)

塩幡 克三



「春爛漫の風薫る・・・一千の力、我ら城南の我ら城南の旗の下に」、城南中の校歌である。創立以来、生徒数は千人には少し足らなかった。でも、城南中の団結やまとまりは、優に一千の力を超えている。生徒の熱き心、何でも一生懸命にやる気持ち、そして地域に支えられた学校、これが城南中だ。

「自主・協和・創造」の3団で闘志を燃やした体育祭。みんなの心を一つにした合唱祭や文化祭。仲間と共に力を合わせた部活動。涙と感動のある、みんなの城南魂を見せてくれた。

「おはようございます。こんにちは。さようなら。」、あいさつが響きあう学校。自分の心を磨いた清掃活動。集中して取り組んできた授業。

地域に出かけての清掃活動。地域の達人とのコロケや和菓子づくり、とんび凧づくり。保育園や高齢者施設への訪問活動。みんなの人としての成長を見せてくれた。

城南中PTAで毎年取り組んできた「ならせ餅」。ここには、保護者の皆さんからの無病息災や合格祈願が込められている。本当に、ありがたい。

結びに、私は、平成5年から6年間、平成28年から3年間城南中に勤務した。みなさんと一緒に生活した日々の思い出は、一生の宝物だ。



歴代学校長



初代 瀧澤 不二男



第2代 坂本 正明



第3代 宮本 文弥



第4代 野上 行三



第5代 大津 烝



第6代 往古 晋



第7代 大澤 昭一



第8代 清水 正敏



第9代 長本 欣三



第10代 外岡 福雄



第11代 黒田 利英



第12代 小倉 満



第13代 横田 敦夫



第14代 諸岡 賢三



第15代 石井 道朗



第16代 壺崎 一



第17代 糸賀 勝示



第18代 今橋 浩一



第19代 戸部 明彦



第20代 海老原 和夫



第21代 塩幡 克三



第22代 青山 利正



第23代 古島 正

歴代PTA会長・学校長

年度	PTA会長	学校長	年度	PTA会長	学校長	年度	PTA会長	学校長
S36	日貝 整一	瀧澤不二男	S55	倉沢 修市	大津 烝	H13	浅野 好紀	諸岡 賢三
	石島 忠男		S56			H14	飯田 光也	石井 道朗
S37	日貝 整一		S57	菅生 文夫	往古 晋	H15	大竹 健夫	
	石島 忠男		S58	杉本 一雄		H16	片山 裕史	
S38	川北 良平		S59	佐川 勝利	大澤 昭一	H17	宮本 義則	糸賀 勝示
S39	中沢 三郎		S60				H18	
S40			S61	糸賀 千之	清水 正敏	H19	大野 金人	今橋 浩一
S41	伊藤 信一		S62	山田 進		H20		
S42	池田勝次郎		S63	高野 博司		H21		
S43	田中郷一郎		H元	荒井 宏	長本 欣三	H22	栗山 松雄	戸部 明彦
S44			H2	塚本 隆一		H23	倉沢 南州	
S45			H3	大竹 雅夫	外岡 福雄	H24	柳田 弘子	
S46		H4				H25		
S47	石川 勝	H5	本谷 正一	黒田 利英	H26	小野村秀道	海老原和夫	
S48	寺田 安由	H6	小島 孝行		H27	松田 喬行		
S49	飯島 勇	H7	岸田 幹雄	小倉 満	H28	岡田 晋	塩幡 克三	
S50	清原 高司	H8	大塚 義之		H29			
S51	足立 友子	宮本 文弥	H9	横田 美博	横田 敦夫	H30	久松 章紀	青山 利正
S52	高橋 和夫	H10	寺本 富男	R元		飯島 進		
S53	小林 公正	野上 行三	H11	寺田 寛男	R2		古島 正	
S54	石島 任	H12	寺田 寿夫	諸岡 賢三	R3			

歴代PTA会長・学校長は、学校沿革誌を基に作成しました。